

15. コンピューターを用いた当院におけるリコール・システムについて

○加藤 陽子, 江島 幸子, 柏木伸一郎

(福岡市・小児歯科 柏木医院)

小児歯科臨床において、患者のリコールは必要不可欠である。当院においても、開院以来7年間、葉書による通知や、電話予約によるリコール・システムを取り入れてきた。しかし、年を迫うごとに、リコール対象の患者数が増加し、従来の事務処理で全体を把握することは、非常に困難な状況になっている。特に、従来の方法では、リコールに来なくなった患者の把握が難しく、とりわけ、保隙処置を施した患者、6才臼歯萌出中の患者、咬合誘導処置を行っている患者など、ぜひ来院してほしい場合の管理が不十分であることが、問題である。

そこで、当院では今年度より、患者管理の合理化および能率化を図る目的で、パーソナルコンピューター・ソードM 243 EXを導入した。プログラムは、既製のノーザEDUCEシステムを用いている。このコンピューターによる主な機能としては、レセプト処理、日計・月計などの経理処理、来院患者の年齢・地域・処置内容などの統計処理およびリコール管理機能などである。

当院では、このリコール機能を用いて、患者管理を行っているので、それについて報告する。初診時に、氏名・生年月日・保険種別などをコンピューターに入力する。治療・予防処置終了時に、次回のリコール予定日、保隙処置、咬合誘導、6才臼歯管理群などの種別を入力する。これにより、必要に応じて、月ごとや種別ごとのリコール予定者のリストアップが可能になる。

このように、コンピューターを利用することで、全体の把握および管理が合理的かつ、正確にできるようになることが期待される。